

122
74

東 京 圖 書 館

七 五 冊	20 七 八 號	二 六 函	和 書 門 小 說 類
-------------	-------------------	-------------	----------------------------

繪本通俗三國志 一編 一

池田東籬亭校正

葛飾戴斗畫圖

繪本通俗三國志

貳編
全十冊

京攝書林

額田雙額堂

岡田羣玉堂

梓



明治十年交換

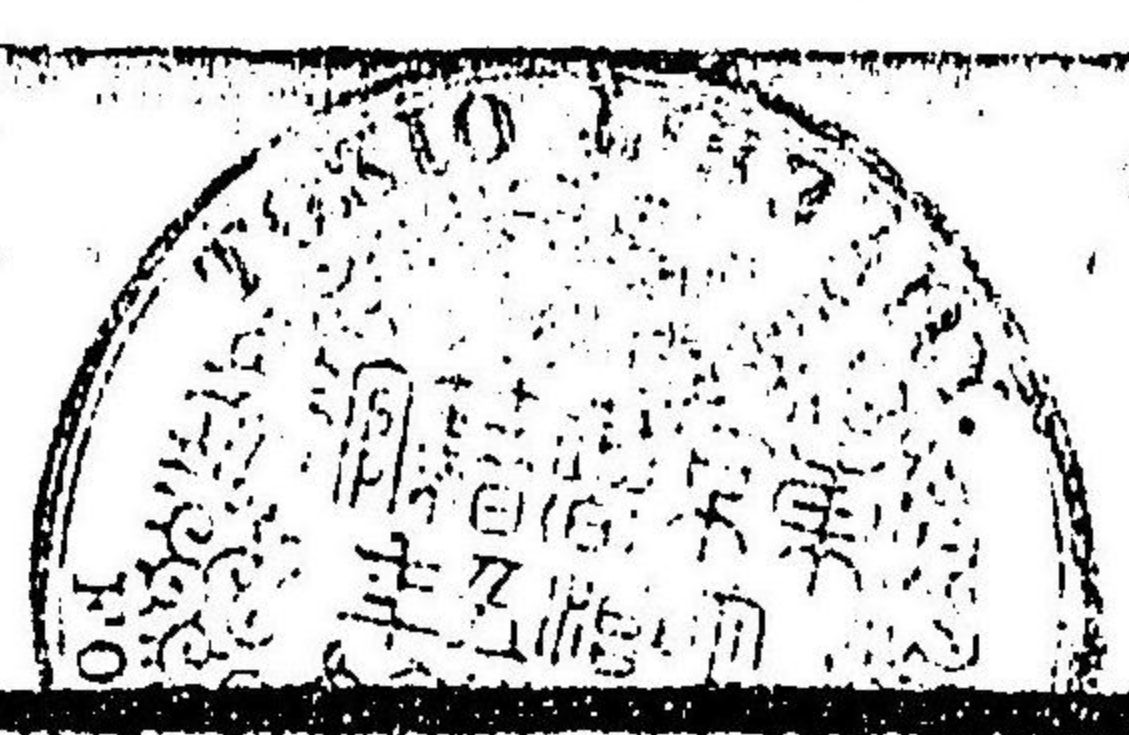
諸葛孔明云王業不偏安、固不可

謂之王業而三國之終於鼎峙是勢之

自然不渴已也孔明始見昭烈於草廬

中也先建跨有荆益結好孫權觀時變

而敵死曹賊之策誠使疆場不出他事難



繪本通俗三國志

魏有百萬之衆吳蜀協力踦角踣之不為
甚難無幾大事可成也惜哉荆州之事起
於卒然丹自相攻國賊乃置之度外七百里
營一敗塗地遂至慙憤死而天下大勢已
去矣雖然荆襄者吳蜀之衝也蜀若失
之則固陵以東恐死其有吳或棄之於桂陽

以蜀不能保吳蜀相讓魏必攘之荆襄入
魏二國後亡矣此乃昭烈之所以不得不爭
也豈保其必勝哉凡事出於意外勢不
得已者皆天也雖孔明之明死於逆觀
也如曰三國之終於偏安者勢不得已也繪
本三國志刻成或請余序因書其大要

以便書畫出家云天保丙申冬十有一月識

於京師快雪堂在軒下

有拙川王府侍鑿

漢陽秋志跋



繪本通俗三國志二編總目錄

卷之壹

孫策大戰太史慈

孫策大戰嚴白虎

卷之二

呂布轅門射戟

曹操起兵伐張繡

卷之三

袁術七路攻徐州

曹操會兵伐袁術

決勝負賈詡談兵

繪本通俗三國志二編總目錄

の六

卷之四

夏侯惇被矢啖眼

呂布敗走下邳城

卷之五

白門樓曹操斬呂布

曹操許田射鹿

卷之六

董承密受衣帶詔

青梅煮酒論英雄

關羽襲斬車胄

卷之七

曹操分兵拒袁紹

關羽張飛擒劉岱王忠

祢衡赤裸罵曹操

曹操三勸吉平

卷之八

曹操勒殺董貴妃

玄德匹馬奔冀州

張遼義說關羽

關羽白馬刺顏良

關羽延津斬文醜

關羽遺書辭曹操

Handwritten annotations and scribbles in the left column.

Handwritten annotations and scribbles in the right column.

關羽千里獨行

卷之九

關羽五關斬二大將

關羽擂鼓斬二蔡陽

卷之十

劉玄德古城聚義

孫策殺于吉仙人

孫權領眾據江東

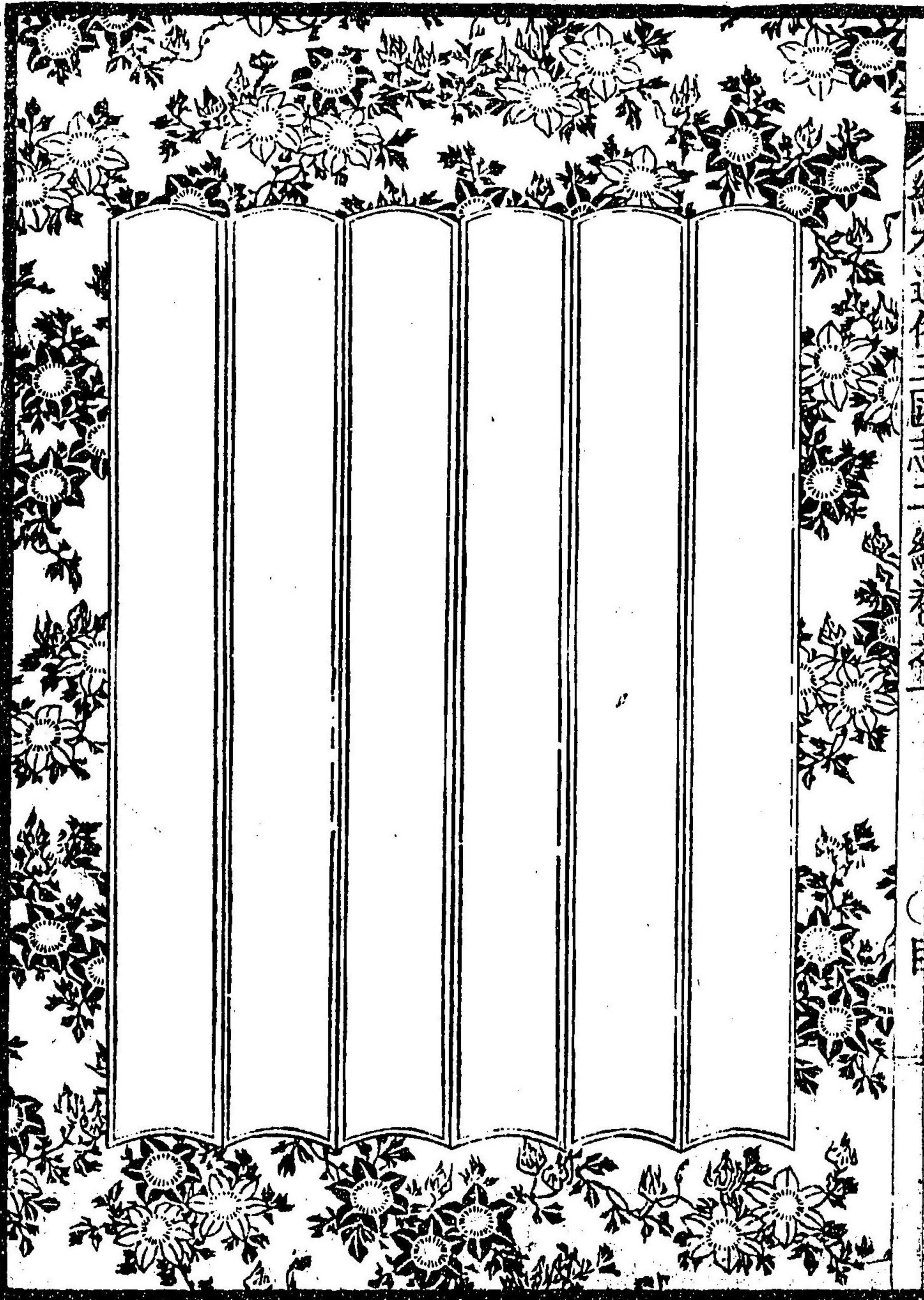
總目錄終

繪本通俗三國志二編卷之壹

目錄

孫策大戰太史慈

孫策大戰嚴白虎



繪本通俗三國志二編卷之壹

孫策大戰太史慈

孫策大軍にて攻下と沙汰ありなまは孫策さまと防ぎ
力あり老母一族を曲阿といふ所を藏しおきて身は淮南
子とわらうと謀りて死せしむ復たあまをさかす
とりののちは孫策討つ封じや涇縣の大師祖郎といふ
と伐らるる戦ひあり又廬江の陸康を伐らるる北

従ふ。と。も。に。江東を以て取大馬の力を辞さして大業
 を建人孫策大よする。及び呂範朱治を以て對面せしむ
 るに天下の事を議する。周瑜や。將軍大業を以て
 人と思ふ。と。よ。う。く。賢人をまねき。必し江東は張氏の賢
 人二人あり。知る。孫策が白く。い。ま。も。周。瑜。の。白。く。一。分
 ひる。群書を覽。と。謀字と書。且天文地理。明ら。あり。
 必し彭城の人は張昭字子布。と。い。ま。も。の。又。一。人。孔。融。の
 貫通して。熟子百家。と。い。ま。も。の。廣。度。の。人。と。張。紘
 字子綱。と。い。ま。も。の。と。も。に。世。ま。れ。る。才。智。と。乱。を
 避。此。處。は。道。將軍。と。用。ひ。孫。策。の。喜
 び。使。を。遣。し。招。け。も。固。く。辭。し。來。ら。ず。自。ら。行

と禮を厚く。遂に伴ふ。と。も。の。事。と。議。と。の。言。語。底
 對。滔。と。懸。河。を。決。と。も。の。張。昭。長。史。撫。軍。中。即。將
 と。張。紘。を。參。謀。に。議。校。尉。と。兵。を。調。え。揚。州。の。刺
 史。劉。繇。を。以。人。と。議。と。も。の。劉。繇。字。子。正。禮。と。の。漢。室
 の。一。族。と。太。尉。劉。罷。の。姪。兗。州。の。刺。史。劉。岱。が。弟。之。舊
 の。揚。州。の。刺。史。たり。が。袁。術。は。追。出。され。と。曲。阿。の。つ。ま。集。り
 と。彭。城。の。相。薛。禮。下。邳。の。相。笮。融。と。い。ま。も。の。二。人。兵。を。集。め
 と。從。ひ。扶。く。是。と。孫。策。が。以。來。を。聞。て。手。下。の。大。將。は。張
 能。干。糜。陳。橫。張。英。と。い。ま。も。の。孫。策。の。武。勇。の。人
 と。い。ま。も。の。拍。ら。い。と。防。ぐ。と。張。英。と。い。ま。も。の。

討破る。とて入らるる。其孫が此度の先陣たらん諸人あり。東萊黃縣の大史慈字子義あり。往日孔融が北海の田を解く。後、是處より先陣にあり。劉繇曰く、你の先手の大将を用ひて。汝は右をまゝとせしむる。とて止めしむ。大史慈黙然として退出。と張英の大勢を引く。牛渚を固ち兵糧十萬石を邸閣といふ。貯へて。まぎびく守りて相待らば。孫策は前を難まざる。とせしむる。も足とたむ。自ら馬を真先。と張英の孫策の陣より。黄蓋刀をまひて。討て出火をちと切合する。の候。張英の陣の後より。乱る。走りぬる。孫策勢なり。乘と追。鬼火をひく。ひく。

張英と討て牛渚をまて。深山に逃ぐる。孫策大に討勝て敵の後より火を掛る。いさる。問ふ二人の大将。余、竊と率と来り。是の孫策のを。二人の回真思。と。黄蓋あり。九江壽春の人。孫欽字の公奕と。二人の形の悪く。目朗ら。眉濃く。九江下蔡の人。周泰字の幼平と。二人の比く。再拜して。我亦乱る。けり。洋子江の内より人をあつめ。強盜追剥。後、世を渡す。のなる。いま將軍の賢と。まねた。を聞て。仕えん。の。孫策其の。軍前の校尉に。牛渚。敵の貯へる。兵糧。武具と奪ひ取。その勢四千余。より。神亭を。打ち。劉繇の張英の牛渚を。

破らざるを聞か。大に怒り斬らざると云らる。諸人
 んと命を請受零陵城を固く守り本陣と神亭の山す
 南に屯劄を孫策の山の北に陣を取ら。地の百姓をよんで
 是山の内は後漢の光武帝の廟ありと問ふ。まよ答てやらる。
 廟の今も残りていへる。祭人みなまよて破れ損た。孫
 孫策が白ふ。昨夜光武帝の廟をむらぬ。夢と見
 り。今行く祭ら。張昭諫をやらる。今山の南に劉繇が
 本陣とせせり。一伏勢あつた。孫策が曰く神明
 を擁護仕ぬ。何の怖る。とあつた。鎧を提げ、馬
 に乗。程普黃蓋韓當蔣欽周泰ホ十三人の大将と伴ふ。
 神亭の嶺に登り。破らる。廟の在るを香を林た。

再拜。心中に祈念。江東の基業を創り。父の志を継ぎを得。是廟を再興。四時怠らぬ祭と云ふ。尊神ねがふ力を副。敵軍を不目。討らる。せ。諸將と入り。山に南に敵の本陣あり。と。諸人謀む。馬を打て。登り。劉繇が存候の勢をよ見付。いと本陣を報て。只今孫策をばる。十騎をとり。御方の陣を伺ひ。告ぐ。劉繇が。孫策が敵と帯き出。の計をらん。時を失らる。今孫策を生取。んが何。

時より侍の志ある人より進み入りて、鎧を取て馬に乗只一騎鞭を加へて出たる座中。年より一人の大將あり。大史慈のやまとの猛將あり。まきもともよかたそまへて跡よほひて馬を出せし満座より人より孫策の敵の陣よくくく入るなり程普と顧き、倡を回らして山を下り大音あびて。まきもまき孫策よりなれ。跡よりあつて呼りて。まきより登るなり。孫策後を吃とて入りて馬を止し鎧をよみて立ちあひちりてあつて問ひ曰その内は孫策のなまき孫策白く。你の何とぞ答ひ曰まき東萊の大史慈あり。孫策と手取せんと為すあり。孫策笑ひ曰まきはまき孫策あり。你が後よまき者より二騎ほどくまきを勝負

せん大史慈白く。你より従ふ十三騎馬とまきと。まきと槍をせんとく。鎧を拵て突く。孫策も只一騎馬を出し大をまらし。五十余合戦へまきと雌雄をまき。十三人の大將の見物とて括りし。まき驚ひて酔るがごと。大史慈も孫策も武勇。まきより勝まきと思ひ。まき馬を打て深林を走り入る。まきより山を後よ出馬て立ち入りて孫策をまきと追来る。你まよまき大史慈あり。まきより勝負せよ。孫策大に怒り。你がまきより進む。まきより大史慈より。まき又三十余合戦へまき。大史慈はまきより戦ひて。まき十三騎の在りて。まき一人あり。生取せんと。まき又詠りて。まき馬より



大史記

大史記



孫策
太史慈
神山麓
一百餘
戰合

孫策

孫策通鑑卷之二

〇七

日まに追ひつゝるをいふ。林麓の原まで帯きよき又まのりて五
余台戦ひつゝるが太史慈の孫策の突鎧を身とせり。その
柄とつゝを握り。その持て鎧より突んとするを孫策は又ま
を中く其柄を握る。たゞ二川の鎧を引あははざる。後馬
りともは落さる馬の何れもななく走り去り。二時をうり引あは
りて遂に鎧とせり。引組上より下より。是時太史慈
の三十歳孫策の二十一歳なる勇を奮ひ気まをけし。と
鎧袍の假塵を引せり。いも勝負もえん。ぞりつゝ孫策の轉
す。太史慈の背よさしたる短く戦を止取と突んとする。太
史慈の孫策が被たる盔を引ちどろとせんぐ。打あかたり。討
鼓のさる地を動かすと。劉繇千余騎よと馳来り。まを。十三

騎のものた馬と双下喚び蒐り。縦横に相當る孫策太史慈
はなをさる離れを。戦ひつゝる太史慈の孫策が鎧と馬とを
と又喚びと蒐る孫策の程音が牽せし馬のりて千余
騎の中へ突入す。まを。大敵志のぶ難け。孫策が十三騎
戦屈して。つゝる。勿心まち神亭の山際。喊のさえとあげと。
周瑜兵を引と馳来り。孫策を扶け。たぐひを引とと戦ひ
つゝる。何果べし。まを。日まに西山に沈まんとす。
とれ俄く大雨降る。相引よを退せたる。

孫策大戰嚴白虎

其次の日孫策兵を引と。劉繇が陣は。昨日奪ひ取
たる太史慈が戟を真先に出すと。太史慈きたる。是戦を

落し。さうくは命と助うなりと呼らせられ。劉繇も其
 を知。昨日のちぎも益を長き筈よしとあけ。孫策が
 首さでさるるありと。呼らせると同音を笑ひる。さうく
 ありと。大史慈馬を蒐出。いづの孫策の落夫人り。出
 戦ふと決せよと馬しり。孫策ききもあふ。鎧と取
 り出せし。程普が曰く。將軍ももへ。自ら輕し
 く出ぬ。ぞ其ねらる。戦うんと。馬を打と出せ。大
 史慈あぶ。笑と曰く。你の何のぞ。對手はあふ。さ
 逸去と孫策を出し。乘を程普大に怒り。まの。討
 て暮り。三十余合戦ふ。ふの劉繇金を鳴し。急軍に収
 め。大史慈引退と。問と曰く。今敵と擒よせんと

何ぞ金を鳴し。敵の大將周瑜ひそ
 まり。曲向を取。又廬江松滋の人は陳武字の子烈といふ
 もの。周瑜の力をあせ。本城を及取り。是處に逗留せ
 前後大敵と受て。呼ば。秣陵へ回。薛禮。融と一平。め
 して。引退。孫策も追がり。張昭。敵
 い。周瑜。曲向を。戦ふ。力あ。今夜急よ。し
 せ。夜討し。仕。孫策去る。兵を五手。分
 つ。び。劉繇が陣中。乱。四。落。さ。ん。は
 逃。大史慈。踏。戦。も。力。及。さ。り。な。は
 十。騎。あ。り。に。涇。縣。落。行。劉。繇。の。許。子。將。と。い。ふ。ま。の
 秣。陵。へ。逃。し。孫。策。大。に。利。を。得。よ。

陳武を引く其の甚なりしは此人の身の長七尺面黄眼の内朱の正。形容さめと古怪あり先手の大将も定めし劉繇と與力せし彭城の相薛禮兵を催しは「聞へるを中蹴ちらせとて」は「よとる陳武十騎ありを引く入勢の中へ打入り立どらる。五十余人を引くは薛禮城中は逃籠りけるを四方より及びるは早馬車と劉繇いま竹融と兵を引く牛渚とびるを出口を孫策まきまきもあへど自ら打向と戦ひける敵の陣より大将于糜と引く鎗を提さびと蒐りし孫策馬とまへて二三合戦ひ馬の上より生取る。よとるを引く樊能といふ馬と打く追来るを孫策急度顧みよ你何ぞとて追ひ近

ばくと呼ぶる聲雷のごとくなりし樊能を汲ひて倒さぬ其落るるを孫策鎗で下と突き返り腹をよこして千麻と更あつと地を投なす微塵よあつと失みたり。たまはる江東の人孫策の勇力を怖るる小霸王とぞ号する劉繇目前は頼切たる二人の大将を討きよと先よと走りぬると孫策あるを追討し及び死せしもの一万余人降るものねとまらばよと劉繇力を落しと防べきやうしへ竹融と討残さるるを引引具へ荆州へ行くと劉表は從が孫策勝り乘り。まはる孫策は及り壕の切し馬を立と薛禮とて中蹴らるるを引今踏むがらんと呼ぶるを引く大倉の上より大将張英と兵と射る矢孫策がたの腿の中りと馬より及びる

諸人なまひと陣より鎧を抜き樂を傳ふ孫策
 うと手とまふるもむせの諸將と計とさだめいり軍
 中よ喪を揚させ矢創急所と孫策まで死たりと沙汰
 一と入又哭きさうはとこれの辭禮あるを聞て実あつとさ
 夜討よしと一人もあはさるる城中の勢をとく起し張英
 陳横を真先とせ討と出さる勿心然と後よ喊をぶ
 川とあげと孫策らとあつと叫ぶ諸軍魂を失うと前へ
 ひとまた後へも走りぞつた馬より下と地の上と拜伏し降
 参せんと望主と孫策らとを一人もあはさる辭禮とさ
 きやうと乱軍の中よと斬死し矢より張英陳武達と
 突とられ陳横の蔣欽は射らるる孫策秣陵城を取と

人民を安んじたらに涇縣はしよせる太史慈は是処は撤去
 むりよ又二千余騎をあのめぎびく守りと防ぎを孫
 策ひそつと周瑜の問と太史慈と生捉計やあるといふ周
 瑜ちる是城を三方よりひと東一方とひらき又さいとより
 東の方五十里は兵を伏せ彼ら走て疲せたるを擒せし
 孫策走るるを二方より息とほほげぬは城中の勢
 いた半山越のちのどむるるの守手の益あるを怖と落ま
 度よんへつと太史慈右ていふあまがと一度は門へ
 らいと討とあつと孫策が兵は下知と雨の降つと射ら
 くら矢よとむむとやうするま城中人引くと其夜陳武
 真先よと壁とのがりへ人を押と戦うひつと太史慈

叶ハドとや思ひん東門より落行なり孫策急ニ追蒐で
 三十里来りたふた史慈ハ五十里よりして人馬とむ
 ね。あざびのる蘆原の中を通るとき俄ハ四方よりとま
 りと。無手よりけと生取なり孫策自りその繩を解と錦
 の袍を著せ禮とありか。座上より請下るまがた史慈が曰く
 敗軍の將を中へ首を刎らまへんと願孫策ヤるるを
 よく御辺の忠義と。劉繇の蠢る虫のごと。御辺を用ひ
 ずて此の如くわびうた史慈そのあるげと感と降らんと請
 らまが孫策たまふと喜び。その手と執りやるる先日神
 亭の戦ふ。御辺よりまはる勝人と思ひぬらた史慈答と
 曰くいま勝負まらるる孫策たま笑ひつう日のひま

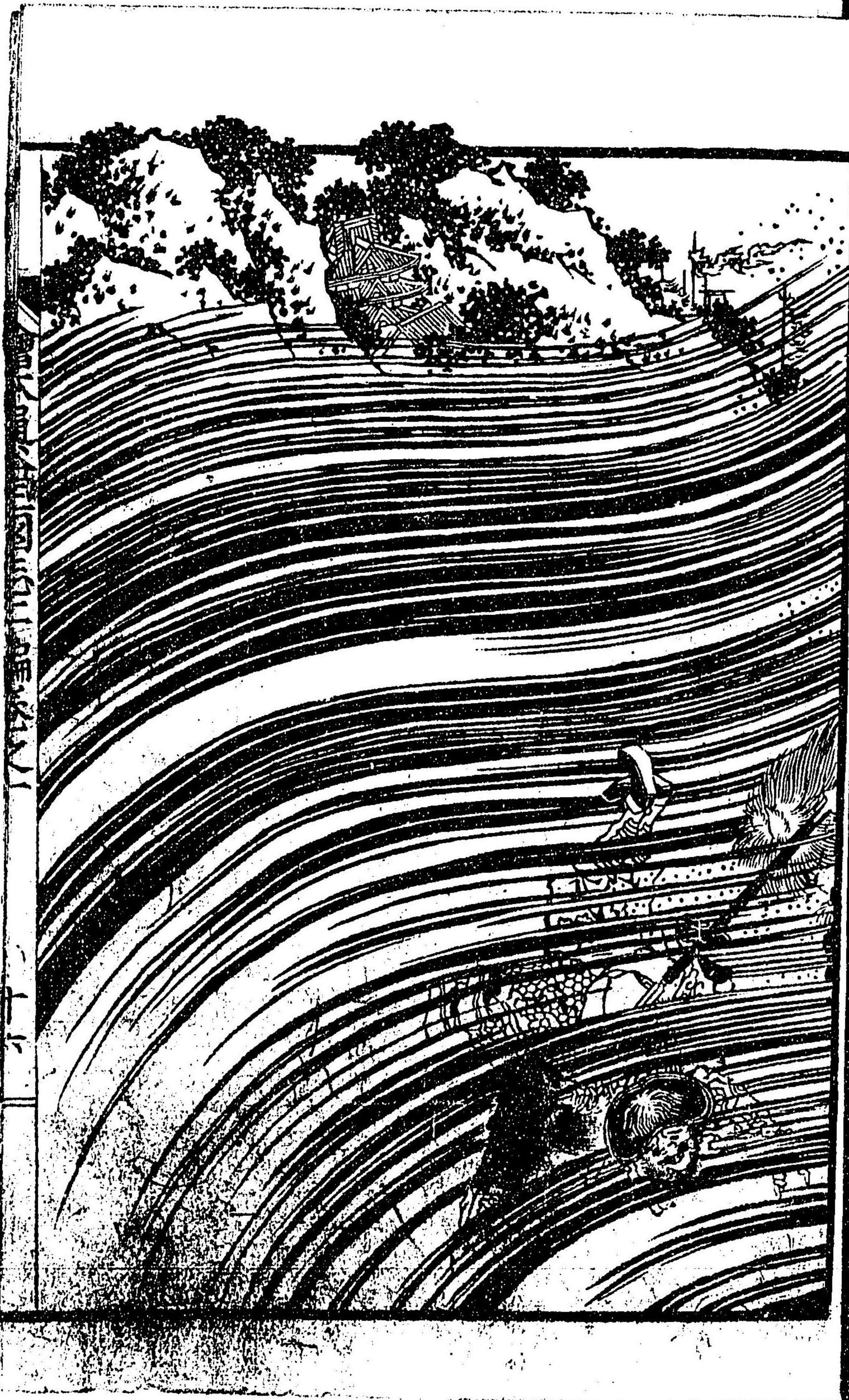
は御辺と議せんねがくく良計と教られよと去まらた史
 慈曰く敗將とんと論らるる足ん孫策酒宴とのあけと
 持ら昔一韓信の廣武君の計を求むまはまは御辺
 の計を問らるるの辞しおとあれと去らまらた史慈中
 らる劉繇行方より落らるるその手の勢。とくく散乱と
 せ。某自ら行くと招き来らるる將軍は降べ。去られ
 る。是事あまらるる將軍の心よりまは。孫策よるま
 曰くま本より望む心か。御辺よりまら行くと明日午
 の刻より。回りか。た史慈まらまら。熱大將とあ
 らる。今た史慈を放しむら。彼らと再び来らる孫策
 曰くた史慈と青州の名士信義を以て重とせらるる

謀りつゝあるに、日の影をたせしむるに、
 のごころは、史慈千余騎を引く日中、
 精兵を領し、威風遠近をふるは、東の人
 民を怖れ、孫郎とよび、何れも孫郎が来ると、
 皆膽を落し、塊と失ふ。官更城をきて、
 山野を藏し、孫策は法度を正し、
 秋毫も犯さず、人民其徳を服し、
 聞はるるに、孫郎の徳を、各家業を
 守り、野を治め、老母一族を、
 由阿の弟、孫權を、大將周泰を、
 自ら兵を、南方へ打ち、
 吳郡を、嚴白虎を

自ら東吳の徳王を、大將王晟を、
 と鳥城興嘉と守り、孫策が、
 楓橋を陣とし、孫策を、
 張紘諫を、夫人將たる人の、
 三軍の命を、繫るるを、
 自ら、何れも、
 敵を、自ら、
 投の、重ん、四海の、
 怖お、孫策謝し、
 金玉の、論多、
 韓當馬、
 敵の後、
 雨の、

嚴興とぞ。後陣より乱れ、相橋とぞ。逆して韓當兵
 を驅り、追搦昌門の下より敵を討て、殺つた。孫
 策大軍と引、水陸とぞ。呉城と圍へ。三日がわひ、
 の息もなほ、自らの壕より馬を立、兵を下知
 する。城中より大将とぞ。高夫倉より上り、
 たる手より上ある梁を持、右の手より孫策と指し、大
 音あげ、罵り、馬の尻より射つ。兵と射、
 増き、射つ。馬の尻より射つ。兵と射、
 その矢の多き、彼敵のたの手と梁を射つ。射付なり、
 諸軍感ず、休め、此をのまらざる。人よりあり、
 城の中より勢より、矢を射つ。やうく、なま

けり。嚴白虎とぞ。聞て怖れ、寄手より是のど
 き、射手あり。とぞ。戦うて、あつ。あつ。和睦
 せん。次の日、嚴興を使つ。孫策が陣に行ひ、孫策
 對面と酒とぞ。半酣より、俄く、劍を抜き、嚴興
 が坐する。席を破り、とぞ。嚴興とぞ。倒れ、孫策と
 ら。嚴興曰く、將軍と和睦をば。江東の地と分ち、
 こほり、孫策大に奴心り。你、爾の輩、
 圍を分ち、とぞ。罵り、とぞ。嚴興事の朝、
 の後、孫策と起り、とぞ。孫策を、
 の後、孫策と起り、とぞ。孫策を、
 の後、孫策と起り、とぞ。孫策を、



烟中陳武
劉繇勢
五十余人と敵す

陳武

新編御代通記卷之十一

十五

へらあひまじとて城とてて落行らるる孫策急は追蒐せし
 へ黄其益の大將王晟と生取た史慈の鳥城を乗取て凱ひ
 破竹のごとく國中とて平定とて嚴白虎の路より民を
 かひやれと糧食を掠め取餘杭をにと落下り其地
 は凌操といふあり土民とあはれとひりし嚴白虎か
 らる命を助りたりと會稽をにと逆せし凌操を
 その子凌統と手勢を引と孫策といへ先手と請と嚴
 白虎を追り西津の渡より大に戦ひ討取たる首を孫
 策に送り嚴白虎力は弱て志づつて休居たり程普急
 及び凌統と又志たり討せし夜中會稽に入ると是時會
 稽の太守王朗といふを嚴白虎をたんとと打たれり

虞翻字仲翔といふも諫とやんる孫策仁義の兵と與
 嚴白虎の暴虐の衆とあつて是をたす令と嚴白虎と生取と
 孫策に獻すりいぬと天の順ふる道ありとせむれど
 王朗とてこれとやんる長嘆と山林に隠れり王
 朗といふは嚴白虎といふととて山陰の野に陣を取ると
 孫策馬をかくとやんるもまはし義兵をあらして浙江を
 平けんとて汝もさんと降らざる王朗怒とやんる汝怒ん
 やむとてとて呉郡を取と又さる来るもとて嚴白虎
 が仇とてとて孫策やるとあつて自ら討い出ると
 り大將一騎のし出しりまはすあつて大吏とて王朗と
 まはして馬をまはして勝負すまはすとて會稽の大將周

昕きんといふ所の馬うまをばつて討うてぬる。黄蓋わうがい又馬うまを出いし
 火ひをちぢして戦いくさひたる。周瑜しゆじゆ程普しやうふ一軍いっぐんとて敵てきの後のちより
 蒐くわくりし。王朗わうらう大おほきとてれ。城中じやうちゆうへ逃のがれし孫策そんさく四方しやうほうより
 息いきをばつてせむ。及およびたりし。王朗わうらうをばつて防かまぎりし。討うて
 出いでし。つらや戦いくさふんといふ。嚴白虎げんぱくこや。孫策そんさく大勢おほいきりな
 りといふ。遠路えんろを来きりたまふ。急いそぎに戦いくさひて決けつせん。望のぞみ
 む御方ごほうを。かへて城しろを守まもりし。彼兵糧あつせんりやうはすりて。二月にがつの内うち
 自らみづかりて。其虚そのまよひを乘のりて。討うて。四門しよもんを開ひらて
 築地つきぢを構かまへ。守まもる。討うて。孫策そんさくをばつて。夏なつに
 いくせと。義ぎまふ。叔父しやくふ孫靜そんじやうや。王朗わうらうをばつて。守まもる。城しろ急いそぎ
 落おちし。會稽けいけいの金銀きんぎん兵糧へいりやう。大半たいてん查獲しやくかくし。あつ。此こゝより

之川このがはを十里じゆりりを隔へた。山やま處ところをきて。查獲しやくかくをば
 ん。その不意ふいに出いで。破やぶらん。孫策そんさくをばつて。即射すなはち
 下知げぢはし。陣中じんちゆうは多おほく。篝穴かきけつを焼やせ。所ところに旗はたをた
 りを立たて。疑兵ぎへいをばつて。夜中よちゆうに。田たを解とけ。直ただ流ながへ。向むかひ
 せ。周瑜しゆじゆが。白しろく。大軍おほぐん一度いちどを。志こゝろを。敵てきの追おとあらん。
 奇兵きへいをばつて。破やぶり。孫策そんさくが。白しろく。計けいあり。此城こゝろ
 を取とり。今夜こんやあらん。送おくり。打立うちたて。上うへ
 朗らうが。守候しゆこうの。ま。奇手きでを。ま。志こゝろを。や。と
 告つげなれ。諸人しよじんあ。中ちゆうに。矢倉やくらより。城外じやうがいに。篝穴かきけつを。入いり
 立たは。旗はたを。王朗わうらうが。白しろく。孫策そんさくを。ま。と。今いま
 志こゝろを。周昕しゆしんが。白しろく。高たかき。軍ぐんを。入いり。

新編通鑑三國志二卷之十一

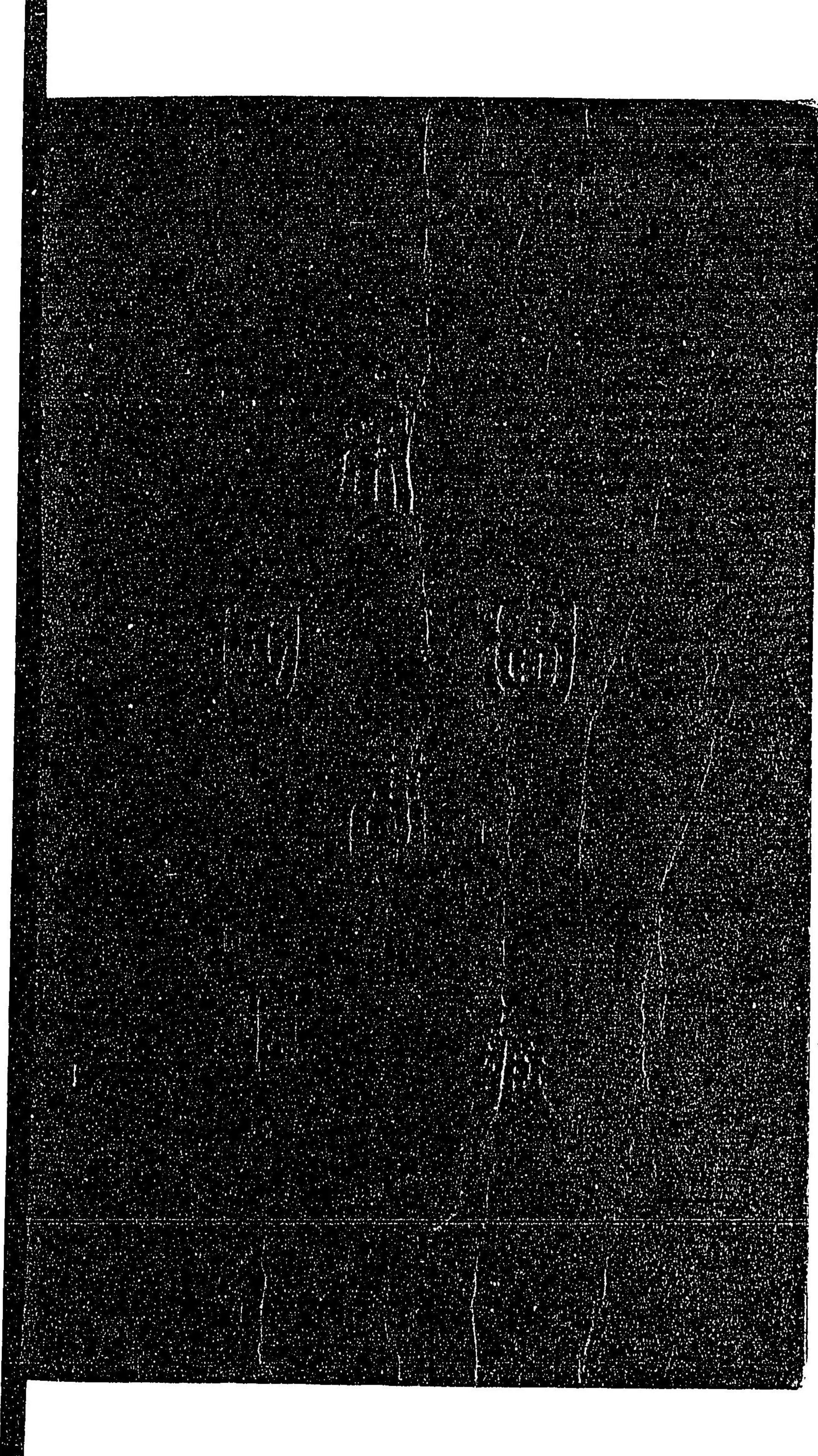
是ごろ、孫策の志、董卓の計なり。孫策、兵糧をきめて、さつちを
 るもの、嚴白虎の中、御辺の、さつちを、同じ孫策、うた
 らせ、査流と取ん、さつちや、追蒐べ、王朗、白、木、身、流、の
 第一の所、ある。二人、早、さつち、打、む、さつち、後、陣、は、は
 く、べ、嚴、白、虎、い、さ、だ、五、千、余、騎、を、引、と、その、お、二、下、里、を、さ
 り、出、さ、つち、初、更、の、ま、る、さ、つち、ぬ、林、の、内、す、賊、の、ま、る、よ
 う、ま、と、さ、つち、敵、の、計、畧、あ、つ、と、す、さ、つち、さ、つち、さ、つち、と、さ
 れ、を、四、方、より、大、ま、う、け、と、孫、策、途、を、さ、つち、さ、つち、周、助、ま、り
 さ、つち、さ、つち、路、と、ひ、さ、つち、さ、つち、一、鎗、の、突、あ、る、さ、つち、け、れ、を、
 その、勢、か、さ、つち、降、人、と、さ、つち、王、朗、は、後、陣、は、と、あ、つ、と、さ、つち、さ、つち、
 城、を、出、り、さ、つち、先、手、の、破、を、た、つち、と、聞、と、叶、と、さ、つち、思、い、さ、つち、跡、

つ、の、町、ら、ず、と、海、隅、へ、落、失、と、嚴、白、虎、は、這、々、逃、て、餘、
 抗、へ、走、り、と、董、裏、字、の、元、代、と、さ、つち、の、迎、て、酒、を、飲、め、
 密、よ、首、と、斬、と、孫、策、お、献、ず、此、お、於、と、南、方、を、さ、つち、
 平均、と、さ、つち、孫、静、と、留、て、惣、守、ら、め、朱、治、と、吳、郡、の、太、
 守、と、さ、つち、時、お、早、馬、と、さ、つち、申、り、と、孫、權、周、泰、二、人、宣、城、と、
 守、る、所、お、俄、お、山、賊、と、四、方、より、推、を、さ、つち、時、お、夜、も、深、と、
 う、せ、と、兵、と、さ、つち、周、泰、と、一、人、孫、權、と、助、を、出、ん、と、さ、つち、
 賊、軍、競、い、蒐、と、危、と、さ、つち、周、泰、身、お、甲、と、披、と、大、
 勢、と、打、破、と、さ、つち、小、圍、と、出、り、と、鎗、と、突、と、さ、つち、瘡、十、二、ヶ、所、
 あり、苦、痛、甚、と、さ、つち、己、お、危、と、告、り、と、孫、策、大、と、驚、と、
 董、裏、と、さ、つち、申、り、と、海、賊、と、戦、と、身、失、と、

と被^ひさしひ^ひと會^あ合^あ普^ふの盧^ろ翻^{はん}と^らふ^らの各^{おの}各^{おの}言^ごの医^い者^{しや}と^すく
 め^く。十日^{じふにち}が内^{うち}ふ平^{へい}愈^ゆせり。孫^{そん}策^{さく}が白^{はく}塵^{じん}翻^{はん}と^らふ盧^ろ仲^{ちゆう}翔^{しやう}と^すの
 董^{どう}襲^{しやく}が曰^い。か^かや^やと^と知^ちら^らず。孫^{そん}策^{さく}が曰^い。向^{むか}ふ張^{ちやう}昭^{しやう}こ^の人^{ひと}と^す董^{どう}襲^{しやく}
 る今^{いま}功^{こう}曹^{そう}の令^{めい}と^しし^しと^と急^{いそ}に盧^ろ翻^{はん}を^あ命^{めい}じ^と。医^い者^{しや}を^ま招^まら
 し^しら^らふ。忽^{たちま}ち^まに^ま伴^{ばん}ひ^ひま^まる。孫^{そん}策^{さく}け^のら^ら対^{たい}面^{めん}す^らふ白^{はく}髮^{はつ}重^{じゆう}
 顔^{がん}出^{しゅ}塵^{じん}の客^{きやく}ら^らり^らま^ま。其^{その}名^なと^とや^や。沛^{はい}國^{こく}譙^{せう}郡^{ぐん}の華^か陀^た字^じ
 の元^{げん}化^{げん}と^とら^らふや^や。聰^{そう}と^と周^{しゆう}泰^{たい}の瘡^{そう}と^と瘡^{そう}治^ちせ^しら^らふ。是^{これ}れ
 の難^{なん}と^と復^{ふく}ら^らん^んと^とふ^ふ。其^{その}年^{ねん}の^あ一^{いつ}月^{げつ}の^あ間^まふ^ふ平^{へい}復^{ふく}せ^しり。
 孫^{そん}策^{さく}こ^のら^ら山^{さん}賊^{ぞく}と^と思^{おも}は^はる^る。平^{へい}復^{ふく}せ^しり。江^{かう}南^{なん}八^{はち}十^{じゅう}一^{いつ}日^{にち}の内^{うち}に^に。手^てふ
 ら^らの^あ者^{もの}も^もか^かけ^ける^る。諸^{しよ}將^{しやう}と^と令^{めい}じ^と。要^{よう}害^{がい}と^と守^{まも}ら^らる^る。十^{じゅう}万^{まん}の^あ勢^{せい}と^と集^あめ^め
 め^め。廣^{かう}く^く賢^{けん}能^{のう}の^あ士^しと^と招^まら^らる^る。勢^{せい}は^は遠^{えん}近^{きん}と^とい^いふ^ふ。朝^{ちやう}廷^{てい}に^に表^{ひょう}

と捧^{ほう}て曹^{そう}操^{そう}と^と文^{ぶん}と^と結^{むす}び^ひ。又^{また}表^{ひょう}術^{じゆつ}が^がか^かへ^へ使^{つか}と^と馳^ち。預^よめ^めと^と
 する傳^{でん}國^{こく}の^あ玉^{ぎよく}璽^せと^と求^{もと}め^める^る。袁^{えん}術^{じゆつ}の^あと^と。帝^{てい}位^いを^を即^{すく}んと^と
 せ^しら^らる^る。了^{りやう}ふ^ふ玉^{ぎよく}璽^せと^と返^{かへ}ら^らる^る。

122
74
28



122
74
28

繪本通俗三國志 二編 一